

施策番号	1401		
施策名	お互いに認め合い支え合ってくらすまちづくり		
概要	すべての市民が障害や障害のある人に対する正しい理解と認識を深め、お互いに個人の尊厳を重んじる市民意識の向上を図るとともに、障害のあるひとが積極的に社会参加するための社会環境づくりや、情報発信・相談支援の強化を進める。		
担当局・部室	保健福祉局・障害保健福祉推進室	共管局・部室	
上位政策	14 障害者福祉		
施策に関係する主な分野別計画等	はぐくみ支え合うまち・京都ほほえみプラン		

施策の評価

1 客観指標評価

指標名		平成 30年度	令和 元年度	令和2年度評価					
				前回数	最新値	目標値	達成度	評価	指標の ウエイト
1	移動支援の利用時間数（時間/月）	b	b	42,669	42,237	46,268	91.3%	b	1.00
2	手話通訳等登録者数（人）	a	a	369	364	376	96.8%	b	1.00
3	日常生活自立支援事業（地域福祉権利擁護事業）契約件数(件)	a	a	834	830	834	99.5%	b	1.00
4	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	-	-	-	-	-	-	-	-	
客観指標総合評価		a	a					b	

2 市民生活実感評価

設問		平成 30年度	令和元年度							令和 2年度 ※
			評価	そう思う	どちらかと言 うとそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言 うとそう 思わない	そう思わ ない	有効回答 者数	
1	障害への理解が進み、障害のあるひと もないひと、認め合い、支え合っ てくらせるまちになっている。	c	c	24 3.6%	191 28.6%	285 42.6%	120 17.9%	49 7.3%	669	-
2	-	-	-							-
3	-	-	-							-
4	-	-	-							-
5	-	-	-							-
市民生活実感調査総合評価		c	c							-

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により調査を一時休止しています。

<総合評価>

平成30	B	令和元	B	令和2	B	施策の目的がかなり達成されている
重み付け	☒ 客観指標	障害のあるひとに対する日常生活やコミュニケーションの支援などの取組は、対象が限られた施策であり、市民の生活実感に施策の効果が反映されにくいと考えられるため、客観指標を重視する。				
	☐ 市民の実感					

<原因分析>

客観指標総合評価

- ☒ b評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。
☐ c評価以下であり、次の原因が考えられる。

市民生活実感調査総合評価

- ☐ b評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。
☒ c評価以下であり、次の原因が考えられる。

・障害のある人への理解が、社会全体に十分に広がっているとはいえないことから、全ての設問で「どちらとも言えない」とする回答が最も多くなっており、c評価で推移していると考えられる。

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>（令和元年度又は令和2年度新規事業）

	事業名	事業費の状況(千円)		令和2年度事務事業 評価結果における 目標達成度評価	担当局
		令和元年度 決算額	令和2年度 予算額		
1					
2					
3					
4					
5					

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

- ・障害のある人に対する福祉サービスや社会参加のための環境整備は着実に拡充している状況にあるが、市民や障害者団体等と協働し、平成30年3月に策定した「はぐくみ支え合うまち・京都ほほえみプラン（京都市障害者施策推進計画）」に基づき、引き続き障害や障害のあるひとに対する正しい理解と認識を深める取組を進めていく。
- ・手話通訳者等の派遣依頼件数は例年同程度で推移しているが、活動可能な手話通訳者数等が微減している。今後もこれまでと同程度の派遣件数が見込まれるため、引き続き養成事業等の取組を進め、人員の確保を図る。

施策名	1401	お互いに認め合い支え合ってくらすまちづくり				
-----	------	-----------------------	--	--	--	--

指標名	移動支援の利用時間数（時間/月）					
-----	------------------	--	--	--	--	--

担当課	障害保健福祉推進室		連絡先	2 2 2－4 1 6 1		
-----	-----------	--	-----	---------------	--	--

1 指標の説明

屋外での移動が困難な障害のある方を対象に，社会生活及び社会参加を目的として実施している移動支援事業（ガイドヘルパーの派遣）の一月当たりの利用時間数

2 指標の意味

障害がある方の外出の機会を促進し，社会参加しやすい環境づくりの進捗状況を示す指標

3 算出方法・出典等

算出方法：年間延べ利用時間数÷12月
出典：事業担当課調べ

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	平成30年度	令和元年度		数値	根拠	達成度
数値	42,669	42,237	432時間減	46,268	京都市障害福祉計画を実現するために必要となる時間数の見込み（平成30年度45,734時間，令和元年度46,268時間，令和2年度46,862時間）	91.3%

	全国順位	中長期目標				備考
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値	-	46,862	令和2年度	90.1%	第5期京都市障害福祉計画	第5期京都市障害福祉計画から引用

5 評価基準

最新数値の目標値に対する達成度が
a：100%以上
b：90%以上～100%未満
c：80%以上～90%未満
d：70%以上～80%未満
e：70%未満

6 基準説明

目標値に対する達成度が100%以上をaとし，以下10%刻みで基準を設定した。

7 評価結果

平成30	令和元	令和2
b	b	b

1 指標の説明

手話通訳者・要約筆記者の派遣登録者及び点訳・音訳奉仕員の登録者数

2 指標の意味

障害がある方の自立した地域生活への移行に向けた情報・コミュニケーション支援の進捗状況を示す指標

3 算出方法・出典等

算出方法：各登録者全数調査
出典：事業担当課調べ

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	平成30年度	令和元年度		数値	根拠	達成度
数値	369	364	5人減	376	過去3年間の登録者数の平均伸び率から算出した必要登録者数	96.8%

	全国順位	中長期目標				備考
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値	-			-		（参考：過去の登録者数） 平成27年度：348人 平成28年度：344人 平成29年度：334人 平成30年度：369人 令和元年度：364人

5 評価基準

最新数値の目標値に対する達成度が
a：100%以上
b：90%以上～100%未満
c：80%以上～90%未満
d：70%以上～80%未満
e：70%未満

6 基準説明

目標値に対する達成度が100%以上をaとし，以下10%刻みで基準を設定した。

7 評価結果

平成30	令和元	令和2
a	a	b

施策名	1401	お互いに認め合い支え合ってくらすまちづくり				
指標名	日常生活自立支援事業（地域福祉権利擁護事業）契約件数(件)					
担当課	介護ケア推進課		連絡先	2 1 3－5 8 7 1		
1 指標の説明						
認知症高齢者，知的障害者や精神障害のあるひとなど，判断力が不十分なために福祉サービスを十分に利用できないひとなどを援助する日常生活自立支援事業（地域福祉権利擁護事業）の契約件数						
2 指標の意味						
判断力が不十分な方に対する地域福祉サービスの充実度を示す指標						
3 算出方法・出典等						
算出方法：全数調査 出典：事業担当課調べ						
4 数値						
	前回数値 平成30年度	最新数値 令和元年度	推移	目標値		
				数値	根拠	達成度
数値	834	830	4件減	834	過去5年間の最高値（平成29, 30年度）	99.5%
	全国順位	中長期目標				備考 (参考：過去5年間の契約件数) 平成26年度 718人 平成27年度 752人 平成28年度 802人 平成29年度 834人 平成30年度 834人
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値	-			-		
5 評価基準						
最新数値が a：過去最高値以上 b：過去最高値未満～上中間値（最高値と平均値の間）以上 c：上中間値未満～平均値以上 d：平均値未満～下中間値（平均値と最低値の間）以上 e：下中間値未満			当該指標については民間部門の寄与度が高いことから，過去5年間の数値を基に，最高値以上をa，平均値以上をcとし，最低値も含めた按分で基準を設定した。 最高値：834件（平成29, 30年度） 平均値：788件 最低値：718件（平成26年度）			
6 基準説明						
7 評価結果						
平成30	令和元	令和2				
a	a	b				